

職人の技量向上へ「マイスター」制度

3段階評価で約3000人が認定

（一社）大規模修繕工事
・優良職人支援機構

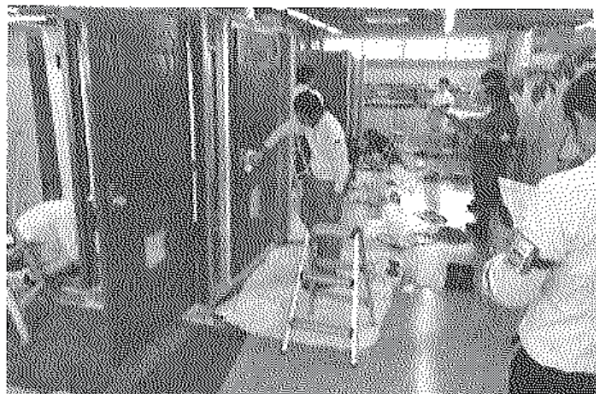


（一社）大規模修繕工事
・優良職人支援機構
（東京都豊島区）
立岡陽代表理事（55）

一般社団法人大規模修繕工事・優良職人支援機構（東京都豊島区、以下RAS）は2日、さいたま研修センター（さいたま市）で『RAS職人マイスター制度』の技能講習を行った。職人の技量向上を目的とした制度で、今回は塗装とウレタン防水の2工種の実技試験を実施。塗装は8人、ウレタン

防水は3人が受験した。2015年度に始まった同制度。大規模修繕工事で行う、躯体補修、塗装、シーリング、防滑シート、アスファルト防水、ウレタン防水、シート防水といった各工種で、筆記試験と実技試験を行い、採点によってゴールド、シルバー、ブロンズの3段階で評価。認定証を発行している。現在約3000人が認定を受けている。

実技試験は1人の職人に3人の検定員が付き、作業の手順や仕上がりをチェック



▶1人の職人を3人の検定員がチェック

クする。塗装の実技試験では約70項目のチェックシートがある。マンションの外壁やドア周りの鉄部を模したモックアップを使用し、希釈率に合った塗材の調合ができてい

るか、ローラーの動かし方はどうか、仕上がりについてパターンが立っているか、などを細かくチェックする。

検定員も試験を受ける資格制で、「設計会社や、施工会社の現場監督や品質管理の担当者など、検定員として実績を積む中で、あらかじめ現場のクオリティー向上につながっている」（立岡陽代表理事）

立岡代表理事は、「メーカーの仕様通りに作業できる職人の腕がないと、十分な性能は発揮できない」と話す。シルバーやブロンズの認証を取得したものの、ゴールドなど上位認定を目指して再受験するケースも多く、職人の技術向上への意欲にもつながっている。